令和３年度　研究構想

１．令和３年度の校内研究の立ち上げについて

（１）研究主題・副題について

学校全体で身に付けさせたい資質･能力

進んで伝えよう　思いを受け止めよう　豊かにかかわり合おう

～SDGs の実現につなぐカリキュラム･マネジメント～

軸とするアプローチ

立ち上げにあたり大事にしたいこと

これまでの研究の**成果と課題を引き継ぎ**、**学校教育目標の実現に向けて「東小倉小学校の児童に身に付けさせたい資質・能力」**（進んで伝えよう　思いを受け止めよう　豊かにかかわり合おう）**の育成がよりよく図られるような研究**に。

☆**目指すのは、あくまで学校教育目標の実現であり、そのために学校として身に付けさせたい資質・能力を育成するということ**を明確にしたい（主題に残しておきたい）。

実現に向けて今年度の研究方法の軸に据えたのが、SDGｓの視点を取り入れた教育課程の編成・実施・改善（カリキュラム・マネジメント）だということを示したい（SDGs は学校教育目標を実現するために数ある手段の中から選び取った一つの視点。副題は目的ではなく「実現に向けて軸とするアプローチ」というこれまでの構造は残したい）。

☆SDGs はすべての人々がその実現に向けて考え行動する共通の目標であり、学校の教育活動や児童に育成する資質・能力も、SDGs の実現に適うものになっている必要がある。しかし、SDGs は社会全体の目標であって、学校教育そのものの目標ではない。社会全体における学校教育の意義、果たすべき役割を踏まえ、**東小倉小学校で育てる資質・能力や教育活動が、社会全体の共通目標である SDGs の実現にどのように結び付くのかという視点で**研究を進めていくようにしたい。

（２）これまでの研究で大事にしてきたこと≒引き継ぎたい成果

○**グランドデザインに基づくカリキュラム・マネジメントによる学校の教育効果の最大化を図ること！**

・グランドデザインの作成を通して「６年間で目指す児童の姿」と「柱となる取組」を共有し、その上で各学年におけるグランドデザインの作成、実践、振り返り・改善という PDCA サイクルを重ねる。
（点ではなく面で育てる≒日常の指導と評価を大切にする。）

・東小倉の教育資源（児童が身に付けた言葉の力や道徳性、地域や保護者等の人的資源、ことたまや聴き方・話し方、児童会活動の充実等ベースとなる取組）を最大限に生かした教育活動を展開する。

（3）教科の枠を越えて東小倉小学校の児童に身に付けさせたい資質・能力

【低学年】

進んで伝えよう	思いを受け止めよう	豊かにかかわり合おう
○人や自然とふれあいながら、五感を働かせ元気いっぱい楽しく活動する態度 ○体験したこと、気付いたことを自分の言葉で表現する力	○協力して楽しく活動することで、友達のよさに気付き、受け止めようとする態度 ○相手が伝えたいことを自分の思いや考えと比べながら聞く力	○自分の思いや願いを達成するために、進んで友達と活動しようとする態度 ○友達とかかわる中で、出会った言葉や考えを自分の考えに加える力

【中学年】

進んで伝えよう	思いを受け止めよう	豊かにかかわり合おう
○学校生活や地域の事象に興味・関心をもち、積極的にかかわろうとする態度 ○相手に分かりやすい方法や言葉を工夫して表現する力	○自分と異なった見方や考え方を受け止めようとする態度 ○必要な情報を収集したり選択したりして、自分の考えに生かそうとする力	○自分なりの課題をもち、友達と協働して方法を考え解決しようとする態度 ○思いや考えを伝え合う中で、自分を見つめようとする力

【高学年】

進んで伝えよう	思いを受け止めよう	豊かにかかわり合おう
○取り組むべき課題に対して見通しをもち、意欲的に追究しようとする態度 ○感性を生かしながら自分の思いや考えを効果的な方法や言葉で表現する力	○相手の思い、状況や立場を理解し、結び付きを深めようとする態度 ○情報を統合したり条件付けたりしながら自分の考えを修正し、深めていく力	○自分の思いや考えを素直に表し、友達と協働して課題解決に取り組もうとする態度 ○事象や他者とのかかわりの中で自分のあり方を問い直す力

（4）今年度の研究においても引き続き共通理解しておく必要のある用語

「道徳性」…人間としてよりよく生きようとする人格的特性。様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質

「道徳性を構成する**諸様相**」
「道徳的判断力」：それぞれの場面において善悪を判断する能力
「道徳的心情」：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
「道徳的実践意欲と態度」：道徳的価値があるとされた行動をとろうとする傾向性（意志、身構え）

「カリキュラム・マネジメント」…教育効果の最大化を図ること！

「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立すること。

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

（5）学習指導要領、学校教育目標、身に付けさせたい資質・能力とSDGsとの関連

学習指導要領前文（抜粋）

これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，**持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる**。このために必要な教育の在り方を具体化するのが，各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して，これからの時代に求められる教育を実現していくためには，**よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る**という理念を学校と社会とが共有し，それぞれの学校において，必要な学習内容をどのように学び，どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら，**社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという，社会に開かれた教育課程の実現**が重要となる。

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成（総則　第２　２（2））

各学校においては、……豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた**現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力**を、**教科等横断的な視点で育成していく**ことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

道徳教育の目標及び「考え議論する道徳」への質的転換、特別の教科化の前提となった背景認識

道徳教育の目標：自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと。

特別の教科化の背景認識

自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを自分事として受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、納得解を得るための資質・能力の育成の必要性

OECD「Education2030 Learning Framework」で目指す教育の方向性

Well-being（個人的・社会的によりよく幸せに生きること）の実現に向けた資質・能力の育成

・「新しい価値の創造」　「責任ある行動」　「緊張や対立、ジレンマへの対処」

・自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力（Agency）を身に付けることの重要性

＊「学びに向かう力、人間性等」（どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか）との接点

学校教育目標：「東小倉という町に愛着をもち、誰もが明日も登校したくなる学校の創造」

身に付けさせたい資質･能力：　**進んで伝えよう　思いを受け止めよう　豊かにかかわり合おう**

SDGｓ（Sustainable Development Goals）：持続可能な世界を実現するために、2015年に国連で採択された2030年までの国際目標。

・**2030年までに持続可能な世界を実現するのに不可欠な**17のゴール（目標）と、169のターゲット（対象）からなる。

・取組の過程で、**「誰一人取り残さない（No one will be left behind）」**ことを誓っている。

〈世界を変えるための17の目標〉

①貧困をなくそう　②飢餓をゼロに　③すべての人に健康と福祉を
④質の高い教育をみんなに　⑤ジェンダー平等を実現しよう　⑥安全な水とトイレを世界中に
⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに　⑧働きがいも経済成長も
⑨産業と技術革新の基盤をつくろう　⑩人や国の不平等をなくそう　⑪住み続けられるまちづくりを
⑫つくる責任つかう責任　⑬気候変動に具体的な取組を　⑭海の豊かさを守ろう
⑮陸の豊かさも守ろう　⑯平和と公正をすべての人に　⑰パートナーシップで目標を達成しよう

（6）東小倉小学校における研究の位置付け（全体像）

〈学校教育目標〉　**東小倉という町に愛着をもち、誰もが明日も登校したくなる学校の創造**
（重点）〇主体的・対話的で深い学びの視点からの不断の授業改善による「学びの充実」
〇互いのよさを認め合い、協働して課題や活動に取り組める場面の保障

学校全体で育てたい資質・能力〈主題〉
進んで伝えよう　思いを受け止めよう　豊かにかかわり合おう

研究の軸
SDGs の実現につなぐカリキュラム・マネジメント
グランドデザインに基づいた実践と振り返り・改善の積み重ねによる教育活動の質の向上

各教科等の授業の実施
・「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を基盤とした「聴いて考えてつなげる授業」の実施
・各教科等で育成する資質・能力と SDGs との関連を考慮した授業づくり（各教科等の資質・能力を育成する過程で SDGs の実現にも資するような授業づくり）
・国語科やことばのたまご（国語科モジュール）での学習を中心に身に付けた言葉の力の発揮・活用

特別の教科道徳の授業の実施
・道徳的な課題について「考え議論する」ことで育成する道徳性と、SDGs との関連を考慮した授業づくり
（総合的な学習の時間、特別活動等）
・本気で考えたくなる学習課題の設定
・保護者や地域の方等の多様な価値観と出会い対話する機会の重視

日常の教育課程内外における指導と評価、**ふれあい班活動**を中心とした児童会活動における指導と評価
委員会活動における SDGs を意識した取組

児童の実態

（7）昨年度の成果と課題（A部会年間反省より）

令和2年度重点目標	具体的な取組	後期　成果〇と課題▲	次年度に向けての改善策
〇児童の道徳性を養うためのカリキュラム・マネジメントに努める。 〇「聴いて考えてつなげる」授業を継続して行い、その基盤となる対話の力を育てる。 ★「道徳教育」市教育委員会研究推進校	①道徳教育、学年のグランドデザインを作成し、児童の実態に沿った効果的な教育活動を行う。 ②全教科を通じて、「聴いて考えてつなげる」対話の力を育てる授業づくりに努める。 ③「特別の教科道徳」を要に、各教科等の特質に応じた道徳教育を行う。	〇日々の授業や日常の取組により、児童同士で投げかけ合い、つなぐ姿や、朝会の場でもうなずいて聴く児童の姿が増えた。 〇異学年とのことばのたまごや分散朝会を行ったことにより、上学年の話し方や内容、着眼点のよさ等を直接感じ取る機会が増え、話し方や内容の深化、新たなめあてをもつことにつながっている。 ▲地域で遊ぶ際など、日常の様々な場面で適切な行動を判断し、実践できるように指導をつないでいく必要がある。	・前年度に身に付けた力、柱としていた取組、指導内容の引継ぎを着実に行い、6年間を通して積み上げていく意識を明確にもって指導にあたる。 ・考えをつなげて深めるため、力を伸ばすために、必要な教師の出を躊躇しない。 ・モデルとなる児童を増やしつつ、学級や学年の児童全体の力を高めていけるように、活躍できる場を設ける。 ・道徳教育のグランドデザインを引継ぐとともに、次年度の重点に沿ったグランドデザインを作成する。

（8）令和３年度の研究の重点（取組の柱）

1　**SDGs に視点を当てた教育課程の編成（グランドデザインのブラッシュアップ）**
2　**「聴いて考えてつなげる」授業の実施と、その基盤となる「あたたかな聴き方・やさしい話し方」、対話の力を高める日常的な取組**
3　**特別の教科道徳**（自己の生き方について考えを深める）**と総合的な学習の時間**（探究）**、特別活動**（実践）**等を関連させた授業提案と振り返り**

2．研究方法（カリキュラム・マネジメントの内容）について

（1）「SDGs の実現につなぐ道徳教育のグランドデザイン」の作成（４月 19 日　研究全体会）

①「児童の実態」の洗い出し　→　「６年間で目指す児童の姿」の設定

②目指す児童の姿を実現するために、学校全体として大事にしていくことを共有

（2）「各学年のグランドデザイン」と「特別の教科道徳の年間指導計画」の作成

①「SDGs の実現につなぐ道徳教育のグランドデザイン」を受けて、各学年で「学年のグランドデザイン」を作成し、学年で行うカリキュラム・マネジメントの拠り所とする。

②学年のグランドデザインを基に、SDGs の視点を加えた「特別の教科道徳の年間指導計画」を作成し、年間を通じて修正・更新していく。

（3）各教科等の授業の実施（各教科等で育成する資質・能力と SDGs との関連を意識）

各教科等の授業においては、教科として育成する資質・能力の育成を図る中で、SDGs の目標の実現にも資するものとなるよう、以下のことを大事にしたい。

①すべての教科等で、「あたたかな聴き方・やさしい話し方」をベースにした「聴いて考えてつなげる」授業を実施する。

・・・学校全体で行う道徳教育の基盤であり、SDGs のキーワード「誰一人取り残さない（No one will be left behind)」を授業において実現し、SDGs の複数の目標の実現にも関わるもの。

②各教科等の授業では、SDGs の目標との関連を考慮しつつ、単元や題材で身に付けさせたい資質・能力の着実な育成を図る。

・・・各教科等で育成を目指す資質・能力を着実に育むことが、道徳性の育成やそれぞれに関連のある SDGs の目標の実現につながる。

③国語科を中心に身に付けた言葉の力（語彙、話し合う力、書く力、読む力）の発揮・活用を促す。

・・・言葉で伝え合う力や、言葉を基に思考し想像する力、言語感覚などを高めることなどが、道徳性の育成や、SDGs の各目標を効果的に実現するための基盤となる。

（4）「特別の教科　道徳」の授業の実施

「特別の教科　道徳」においては、「考え議論する道徳」を通して、ねらいとする道徳性を養う中で、SDGs の目標の実現にも資するものとなるよう、以下の３点を柱として、授業研究を行う。

①学年グランドデザインで目指す姿に向けた教育課程全体の取組の一環として位置付ける。
②SDGs の目標との関連を考慮しながら、道徳の問題に向き合い考えが深まる教材、本気で考えたくなる学習課題を設定する。（特に探究を通して資質・能力を育成する総合的な学習の時間や実践を通して資質・能力を育成する特別活動とも効果的に関連を図る）
③多面的・多角的に考え議論することで自己の生き方についての考えが深まるよう、考え方（情報活用の仕方や思考の視点）を教え、児童が活用できるようにする。
（関係付ける、集める、比較する、分類する、統合させる、時間軸・条件軸で考えるなど）

○日常の「特別の教科 道徳」の授業について

昨年度の略案をベースに、SDGs の視点を入れて作成します

毎週の特別の教科道徳の授業について、Ａ４・１枚程度の簡単な略案を作成し、共有フォルダの各学年フォルダ内に保存していく。今年度蓄積された毎週の授業略案が、次年度のカリキュラム案となる。

３．研究組織について

学年内で、「学習環境部会」と「常時活動部会」に分かれて所属します

・学習環境部会・・・学校全体で行う道徳教育の基盤としての「あたたかな聴き方・やさしい話し方」のステップ表や、教室内・廊下の掲示物等、資質・能力の育成に資する学習環境を検討して提案し、その活用を推進する。

・常時活動部会・・・語彙を増やす、書くことで考えを明確にする、話し合いのスキルを高めるなど、国語科で育成する言葉の力が道徳性の育成や SDGs の実現において重要な役割を果たすことに鑑み、毎週木・金曜日の朝 15 分間の国語科モジュール学習「ことばのたまご」の計画を提案し、推進する。

・学年部会　　・・・各学年での授業や各教育活動の計画、実践、振り返りを行うなど、学年で行うカリキュラム・マネジメントの充実に努める。